



2024年10月15日
VOL 33

みえ ケア マネ 通信

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

〈事務局〉

〒514-0003 三重県津市桜橋 2 丁目131

三重県社会福祉会館 1 F

編集：広報部会

電話 059-213-7766

FAX 059-213-7765

<http://mie-cma.com/>

〈発行者〉

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

会長 奥田隆利



一般社団法人 三重県介護支援専門員協会

会長 奥田隆利

令和六年度の事業計画等について

会員の各位におかれましては、当協会の事業にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。でございます。

本年六月十六日に当協会の定期総会を開催させていただきました。来賓として、三重県長寿介護課長様、三重県医師会様、そして歯科医師会様と薬剤師会様から祝電をいただきました。基調講演には、日本協会の濱田副会長にご登壇いただき、『介護報酬改定、制度改正動向と介護支援専門

員の今後のあり方を考える』というテーマでトリプル改定における介護支援専門員の役割、特に医療と介護の連携におけるハブ機能としての重要性等についてお話しいただきました。また、第九期介護保険事業計画期間を通じて、我々が現場で対応している利用者像が多様化・複雑化しているなかで、質の高いケアマネジメントを提供し、さらに生産性向上と人材確保をどのように進めていくのか等、具

体的な方策を講じるための検討会（ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会）に柴口日本協会会長が出席されています。第四回会議（九月二十日開催）に日本協会のコメントが紹介されています。みなさんも是非ご覧いただき、各支部で前向きに議論を重ねていただければ幸いです。

本年度の東海ブロック研修in三重（令和七年二月十一日開催予定）に柴口会長にご登壇いただく予定です。三重県協会として、良いアイデアが提案できればと考えております。

今年度の県協会の事業は、これまで同様に研修事業を中心に、三重県様からの委託事業、協会独自の総合相談事業、そして大規模災害時における協会運営のためのBCPの作成に取り組んでまいります。

すべての事業は、各九つの支部様と連携しながら進めてまいります。会員各位におかれましては、引き続きご理解ご協力の程お願いいたします。

令和六年六月二十九日に社員総会が開催されました。初めに、一月一日に発生した能登半島地震における支援について、石川県介護支援専門員協会の北山会長より挨拶があり、黙とうを行ってから始まりました。

令和五年度事業報告について、介護報酬改定への取組では、厚生労働省との協議や、日本介護支援専門員連盟と連携によるロビー活動等により、居宅介護支援の基本報酬のアップ、加算要件の緩和など、一定の効果を得られたという説明がありました。また、組織運営では、会員が前年度と比べ四百九十四名減少し、退会理由として退職と異動が主な理由になっており、生産年齢層減少の影響を受けているようです。対策として、県協会と日本協会の一本化を推進していくとの事でした。会員増強は意見力の強化につながるの、次年度以降に関係する重要な課題となっています。

令和六年度の事業活動としては、①会員増強と組織の強化。②

介護保険法改正・報酬改定の対策。③調査研究の推進。④介護支援専門員の資質の向上。⑤介護支援専門員の将来像。

介護支援専門員の将来像では、ポスト二〇二五年の医療・介護提供体制の姿を踏まえ、二〇四〇年からのバックキャストを検討、さらにAーやICTの活用によるケアマネジメント業務の負担軽減・効率化や精度の向上に関する技術向上に資する研究事業への積極的な参加が必要であります。デジタルDxを適切に使用するのには介護支援専門員であるので機械任せにせず、質の高いケアマネジメントの視点がより求められると思いました。

令和七年は協会設立二十周年となりますので、式典の準備をしていくと報告がありました。介護保険制度が二十年以上たち、介護支援専門員の業務範囲や労働環境が大きく変化する新たな時代に入った事を実感する総会でした。

2024 役員紹介

会長 奥田 隆利

総務部

副会長 久保田 久美
部長 山田 剛
井谷 礼
倉田 理
島村 智之
高村 聡
塩井 崇
災害対策

研修部

副会長 小川 竜司
部長 川上 剛志
谷口 美千子
寺阪 三千穂
中島 英子
濱口 幸彦
廣瀬 雅也
田中 美華

広報部

副会長 江口 雅子
部長 田中 宏樹
大橋 一智
中居 美幸
中道 尚美
中森 直美
平賀 美幸

二〇二四年六月十六日の総会において新しい体制になりました。二年間よろしくお願ひします

監事 福田 雅文
監事 川村 智美
相談役 志田 幸雄



【令和6年度総会時のスナップ写真です。現役員とは異なります。】

大規模災害時の対応に向けて 災害支援とケアマネジャーの役割

災害対策委員長 塩井 崇



この度、ケアマネ通信において災害関連のコラムを担当させていただきました。まず塩井崇と申します。

日頃は、三重県介護支援専門員協会の災害対策委員会において、大規模災害発生時における利用者への支援のあり方や平時の備えや県協会としての役割、県内外からのケアマネジャー同士の援助のあり方等について、「三層構造」も念頭に置きながら各支部間との情報交換を行っております。

今年の一月一日に発生した能登半島地震は大きな被害をもたらし、多く

の人々が影響を受けました。今回の能登半島の災害は、私たちケアマネジャーにとっても新たな使命が求められています。今後、本コラムでは災害支援におけるケアマネジャーの具体的な役割や地域住民との連携の重要性、災害時の対応について皆様にお伝えできればと思います。



広報部会からのお知らせ

ICT化に伴い、今後のケアマネ通信は誌面版とWEB版を併行して発行することとなりました。誌面版は年に一回ご自宅へお届けいたします。WEB版はホームページで閲覧が可能です。

ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、次号は令和七年三月頃、WEB版にて発刊予定です。ホームページをご覧ください。よろしくお願いいたします。

ご意見等ございましたら、事務局までお知らせください。

ホームページ
(ケアマネ通信) はコチラ↓



<https://mie-cma.com/letter/>

令和6年度下半期研修会

	開催日時	テーマ	講師
第7回	2024 11/30(土)	臨床の現場から考えるスピリチュアルケア	東北大学大学院文学研究科宗教学専攻分野 特任助教 井川 裕寛 氏
第8回	12/7(土)	ケアプランに求められる思考過程 ～本人が望む暮らしの実現に向けて～	株式会社日本医療総合研究所 地域づくり推進部部長 認知症介護研究・研修東京センター 研究員 川越 雅弘 氏
第9回	2025 1/11(土)	施設ケアマネジメント研修	一般社団法人日本介護支援専門員協会 介護保険施設等部会 部会長 大野 知之 氏
第10回	3/15(土)	ケアプラン点検研修	京都府介護支援専門員会 副会長 川添 チエミ 氏

一般社団法人 日本介護支援専門員協会

令和6年度

東海ブロック研修会in三重

新たな地域社会の創造 Vol. 4

これから求められる介護支援専門員の役割等について

津市



津市 PR キャラクター“シロモチくん”

日時 令和7年 **2月11日** (火・祝)

10:00～16:20 受付 9:30～

会場 **アストホール** (JR 近鉄津駅徒歩 1 分)

津市羽所町 700 アスト津4階
Zoom を活用したハイブリッド開催

定員 会場 270 名 Zoom 300 名

先着順にて受付

参加費

日本介護支援専門員協会会員	¥ 2,000
東海ブロック内県協会会員	¥ 4,000
その他	¥ 6,000



主催：一般社団法人 日本介護支援専門員協会 東海ブロック

一般社団法人日本介護支援専門員協会 令和6年度 東海ブロック研修会 お知らせと参加のお願い

本年度の東海ブロック運営については、昨年に引き続き、三重県が担当県として進めて参ります。小川副会長が東海ブロック理事として日本協会に参画し、研修会については実行委員会（県協会理事・地域支部選出委員）が企画・運営を行っていきます。

今回の研修会内容については、現在調整中ではありますが、地域包括ケアシステム・地域共生社会実現における介護支援専門員の役割に関することと BCP を柱とした基調講演、東海4県からの取組発表を予定しております。

又、開催形式につきましては、現地集合と Zoom を活用したハイブリッド研修として開催致します。東海4県の仲間たちとの活発な意見交換もできると思いますので、是非皆様のご参加ご協力を宜しくお願い致します。

【日 時】 令和7年2月11日（火・祝）10：00～16：20

【会 場】 アスト津（津市羽所町700）※Zoomを活用したハイブリッド開催

【参加費】 三重県介護支援専門員協会会員 2,000 円 非会員 6,000 円

○午前の部

テーマ：地域包括ケアシステム・地域共生社会実現にむけて

『ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会について（仮）』

講師：一般社団法人日本介護支援専門員協会 会長 柴口 里則 氏

テーマ：BCP の作成及び訓練の実施に関すること

『能登半島地震と災害支援について（仮）』

講師：石川県介護支援専門員協会 会長 北山 達朗 氏

○午後の部

●東海4県からの発表

愛知県「能登半島地震における災害支援報告と支援の際に感じたことについて」

岐阜県「主任介護支援専門員による人材育成と地域作りの実践について」

静岡県「ICTを活用した居宅介護支援事業所の業務効率化について」

三重県「災害ボランティアの実践発表」

●日本介護支援専門員協会の活動紹介

昨年のブロック研修会の様子



FOCUS ケアマネ File 30

チャレンジ！

ケアプランセンターよつば
管理者 兼 主任介護支援専門員
小出 奏穂

私は、介護福祉士学科のある短大へ進学しました。実習では約二か月特養に泊まり込みで、不規則な勤務を経験し、その中でも一カ月の間で、四名の入所者様が他界され（それぞれ老衰だったと思います）、実習生だった十代の私にとっては、とってもショッくな出来事であったとともに、日々の関わりの大切さ、施設で看取りをすることの重要性を学ぶことができました。そして、介護福祉士を取得し、障がい者デイサービス、ヘルパー、老健で勤務してきました。出産や子育てで現場から少し離れていましたが、介護支援専門員の受験資格があることから、受験し、それ以降介護支援専門員として仕

事をすることに決めました。そこから十五年程経過し、令和四年一月一日に、津市白山町で空き家を借りて新たに一人で居宅介護支援事業所を立ち上げ、自分が自分らしく、地域で活躍をしていきたいと思い、独立をしました。

以前から、三重県介護支援専門員協会津支部の役員として、津市の介護保険事業等検討委員会の委員や、関連会議への出席、多職種連携研修会等に参加することで、学びの機会に恵まれました。

また地域をよくしていくために、認知症を地域の人にも正しく知っていただきたいと思い、認知症キャラバンメイトの資格を取得し、地域の方や福祉業界の方たちに向けて認知症サポーター養成講座を開催することや、ラン伴の役員として携わってきました。

こんな私が、令和六年度より三重県介護支援専門員協会津支部の支部長を務めることになりました。私には荷が重く不安が大きいです。日々一人で業務を行っているため、勉強の機会

をたくさん持つことや、より多くの関係機関の方との関係づくりが必要であると感じているため、仲間に支えていただきながら、よいチャンスなのかなとポジティブに受け止めチャレンジしていこうと思いき動き出しました。津支部では年間約6回の研修会を開催しております。それらの研修会の中で支部の会員の皆様が、より質の高いサービスの提供を行うための機会、そして横の関係作りのできる場を担っていくことができましたらと思っています。そして津市と連携し、利用者の自立支援につながるケアプラン作成のためにしっかりと働きかけていきたいと思っています。



○事務局だより

●各種申請がオンラインで簡単便利

会員の皆様の利便性をさらに向上させるため、住所や所属先などの変更の申請が、スマートフォンから簡単に行えるようになりました。

また、入会のお申込みについても、インターネットで簡単に行えるようになりました。入会をお考えの方へ、ぜひご紹介ください。

なお、紙媒体での受付も引き続き行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。



事務局は毎週月～金
10:00～16:00まで
開いています

